

# 鎌倉・九条の会 ニュース

第31号 2023年3月 発行

鎌倉・九条の会

TEL:0467-24-6596

FAX:0467-60-5410

0467-24-6577

Email:kamakura9jo@gmail.com

HP:http://kamakura9-jo.net

FB:https://www.facebook.com/  
groups/kamakura9jo



鎌倉・九条の会 講演会

## 金平茂紀が語る 政治とメディアのタブー

2023年1月28日(土)

6:00~8:30pm

鎌倉生涯学習センター ホール

鎌倉・九条の会は、2023年1月28日にTBS『報道特集』のメインキャスターを12年間務め、昨年の9月24日をもって降板された金平茂紀さんを講師としてお招きして、講演会を開催しました。会場は超満員となり、講演のテーマは、『政治とメディアのタブー』ということと金平さんは「本当のことしか言わない」ことが私の話のベースだと宣言されて、講演が始まりました。

金平さんは、ロシアのウクライナ侵攻直後から2回にわたってウクライナの現地取材にあたり、生々しい現地の状況をその目で見てきました。さらに、かつてソ連からロシアへの大転換の時代に当時のモスクワで4年間滞在されました。このような原体験から現在のロシアを批判します。また、安倍元首相の銃殺事件にも言及し、「パンドラの箱は開いた」と喝破します。そして、これらの事象が憲法9条の持つ意義を再確認する契機となり、より大切なものとして私たちの目前に突き付けられている、と主張されます。

金平さんは講演最後に、尊敬する先輩、故筑紫哲也さんの言葉を引用して「少数派であることを恐れるな」と言っており、私たちを励ましました。金平さんの講演記録をじっくりお読みいただき、岸田政権の国会を無視して暴走する防衛費の倍増、敵基地攻撃能力の保有、武器輸出の緩和等々、次々と憲法9条をないがしろにする動きに対し、金平さんの言葉を今一度噛みしめ、私たちは今から何をなすべきかを考えていきたいものです。

### 本当のことしか言わない

今日僕がお話したいのは、本質的って言ったたら大袈裟だけど、ちゃんと考えなきゃいけないことってあるでしょう。皆さんにお話しをしながら、何らかの考えるヒントとか、何か行動を起こすためのきっかけみたいなことを一緒につかめれば良い

なという、そういう主旨でお話をさせていただきます。

僕は、「本当のことしか言わないキャラバン」という番組を、昨年の9月にレギュラーを降りて以降に全国の方々から来てくださっているお声かけが多数あって、いろんなところへ出かけています。僕はもう、本当のことしか言わないっていうこ

とを決めたんです。本当のことしか言わないって大事なことです。テレビで本当のことを言うと、何かが起きます。ある人は刺されたり、ある人はいつの間にかいなくなったり、ある人はとっても嫌な目に遭ったりとかいうことがあるんです。

僕の尊敬している忌野清志郎というロックシンガーが「言論の自由」っていう、「本当のことなんか言えない」という歌を歌いました。彼が言っていたように、本当のことを言うと、殺されかねないみたいな世の中に今、実はなりつつあるというように、僕は危惧しています。

本当のことしか言わない。これは僕が用意していた「分岐点以降」という本日の講演のメインタイトルです。僕が69年の人生の中で会ってきて、あるいは接して経験してきた中で、自分の今の生き方に流れ込んでいる「本物」の人たち、筑紫哲也さん、忌野清志郎さん、ジョン・レノンさん、米原万里さん、作家の井上ひさしさん、在野の科学者高木仁三郎さん「報道特集」初代のニューズキャスター料治直矢さんと堀宏さん。

井上ひさしさんが原作の「ひょっこりひょうたん島」はNHKが「まとも」だった時代に、毎日放映して

いた、本当にいい番組だったですね。直接民主主義のドラマだと僕は思っているんですけど、今のNHKでは絶対にかような暗喩などないですね。

さて、文部省が1947年に全国の学校に配った副読本で、新しい憲法の9条を説明しています。副読本の中にも戦争反対、戦争放棄ってはっきりと書いてあるじゃないですか。今の文科省は真逆のことをやっていますよね。それぐらい、今の時代は戦前への道を辿っている、というふうに捉えています。

僕は横浜に住んでいるので、よく鎌倉に来ていたんです。皆さんにとっては、今鎌倉のことで何が一番問題なんですか？ 僕としては市庁舎移転が喫緊の問題だと思うのですが、声をあげたほうがいいですよ。じゃないと今の国政のように押し切られちゃう。議論は決定した後でいいんだ、みたいなことになりかねない。

もう一つ、鎌倉関連で思い浮かぶことがあります。2011年に出た『日本原発小説集』という短編集の中で「虹のカマクーラ」という小説があります。カマクーラは鎌倉。主人公が苛立つ外国人の暴力に唐突に遭ってしまうという小説です。

いろんな問題を考えさせられる「虹のカマクーラ」をぜひ読んでみてください。

ださい。

## 2022年は歴史の分岐点

今日の本題は、さっき言った「分岐点以降」という話です。2022年は、間違いなく後世の歴史家から2022年にいろんなことが変わったという分岐点に位置づけられるって考えています。2つの大きな出来事、その一つは2月24日に起きたウクライナに対するロシアの侵攻。

ロシアによるウクライナ侵攻って、主語は国家です。現実には、プーチンに指示された軍の兵士が国境を越えたり、あるいは空から攻撃をしているっていう、本当の主語は人なんです。それがロシアによるウクライナ侵攻、ウクライナというも国の名前ですよ、でも、現場にいるのは、実はそこに住んでいる人だったり、あるいはウクライナ軍の兵士だったりするわけで、国家ではありません。戦争をするときの主語っていうのは、必ず国家になります。国家に命じられたとき、その国家の命令が理不尽なものだったり不当なものだったりすると、それに従う必要は、本当のことを言うところありません。ただ、不服従など出来ないですよ。今、ウクライナは一方的に攻め込まれて

いるわけですから、それに対しての抵抗は、ごく自然の反応としてあると思うんです。ロシアによるウクライナ侵攻っていう言い方に前提とされている主語は国家だよ、そのときの国家って一体何なんだっていうことを、僕は素朴な疑問として、まず頭に浮かんだっていうことと、もう一つは、正義論対平和論。今、ウクライナ戦争に向き合うときに、大きく2つの潮流があると思うんですね。

一つは正義論、邪悪な、あんな侵略みたいな形で攻め込んできたロシアに対して、国民と領土を守るためにウクライナは徹底的に抗戦しなきゃいけない、こんな理不尽なことを仕掛けられた場合は、正義を貫くために戦争も辞さない、正義の戦争を肯定する立場ですね。これ、正義論。今、世界の主な国々、欧米とか、日本もですね、この正義論っていう立場に立っていると思うんです。

もう一つの潮流というのは、戦争の本質は敵を殺すこと、敵に勝つことです。戦争の本質は、つまるところ人殺しだ。これ以上戦争が長引くと、インフラが徹底的に破壊されて、どんどんと人が死んでいく。一刻も早く外交的な手段によって、あるいは仲介者が入るなりして、今、起きている戦争という人殺しの行為

をやめろというね、そういう和平論、  
こういう考え方があります。

和平論とか停戦論とか平和論とい  
うのは、本来は国連が担う役割のは  
ずなのです。しかし、その国連の常  
任理事国たるロシアが仕掛けた行為  
ですから、実際に戦争を止めるって  
いうような抑止力は、国連にはない。  
正義論から導かれた正義の戦争。あ  
の邪悪なロシア軍に対して徹底的に  
抗戦して退かせる、負かすためには  
正義の戦争も辞さないんだっていう  
考え方のほうが、今、多数派です。

この戦争が長引けば長引くほど、  
どうしたらいいんだっていう、正義  
の戦争をますますさらにやらなきゃ  
いけないのかってという立場と、一刻  
も早く停戦を実現しなきゃいけないっ  
ていう立場、はっきりと分かれてい  
ますね。今は優勢である正義論って  
いうのが、だんだん僕は退いていく  
ような気がしています。その理由は  
後でお話します。

分岐点の2番目、僕は「七・八事  
件」と呼んでますが、2022年の  
7月8日に起きた安倍元首相の銃撃  
殺害事件です。

これによって、その後起きた一連  
のこと、国葬があったり、統一教会  
問題があったり、現在進行中のいろ  
んな、例えば防衛費の増えたいな、

つまり乱暴政策の大転換とか、そう  
いうのも七・八事件が直接的間接的  
に関係していて、その余波が物凄く  
大きいと感じますね。七・八事件が  
起きなかったら、統一教会のこと  
か、宗教二世のことなんか誰も論議  
なんかしてないですよ。そういう意  
味で、パンドラの箱が開いたと僕は  
思っています。この2つのことだけ  
でも、2022年は、大きな意味で  
時代の分岐点になると思うんですが、  
ショック・ドクトリンってという言葉  
があって、これはカナダの作家で  
あるナオミ・クラインという人が、  
岩波新書で「ショック・ドクトリン」っ  
ていう用語を使って説明しているこ  
となんですけども、今起きている事  
態を考えると、とても有効なヒ  
ントを与えてくれると思うんです。



### ショック・ドクトリンとは？

大惨事、戦争、予想もしなかった  
ショックな出来事が起きると、  
私たちは一瞬、判断力が麻痺してし  
まう。大災害や戦争が起きると、冷  
静な判断が働きづらくなる。途方に  
暮れ混乱状態になって冷静な判断が  
出来なくなったりときに、普段は出来  
なかったことをやってしまう。岩波  
の翻訳者は惨事便乗型資本主義と記  
している。「これは冷静な言い方」  
ですが、僕は、実は火事場泥棒とい  
う言葉が一番近いと思う。火事場泥  
棒はみんな火を消すのに必死になっ  
ている隙に、消火作業をやっている  
人の家に忍び込んで盗みを働く。そ  
の人間にもとることをウクライナ侵  
略戦争や安倍元首相の銃撃殺害事件  
が起きたことで、人々の冷静な判断  
力が混乱している機に乗じて、政府  
などが戦争を出来る国にしてしまお  
う、と。

ショック・ドクトリンの概念は、  
眼前に起きている巧妙な枠組みを理  
解する上で有効なことです。

僕、本当のことしか、今日、言い  
ませんから。大事な順番で言います  
ね。今、防衛費を今後5年間に43  
兆円増やす案がいきなり出てきたで

しょう。これ、ショック・ドクトリ  
ンの最たるものです。日本国憲法の  
平和主義の理念を踏みにじって、G  
DP費2%へと。NATO諸国は計  
算方法も、2%の数え方も違いますが、  
官邸は、その数値を自動的に適用し  
て43兆円をはじき出したらしい。  
財務省や外務省とすり合わせながら、  
去年のかなり早い段階でこの数字が  
出ていた、という説もあります。狙  
い澄ましたように慌ただしい年末、  
国会が閉会中に一気に戦後の国のあ  
りようを変える大きな転換をやっ  
てしまう。暴走という言葉じゃ、とて  
もおぼつかない、とんでもないこと  
が今起きています。

GDP費2%、43兆円に増やす  
と、日本はアメリカ、中国に次ぐ、  
世界第3位の軍事大国になります。  
皆さん、望んでいるんでしょうか？

閣議決定って、今の国会構成でい  
うと、その通りになります。このや  
り方がジョージ・オーウエルです  
よね。敵地攻撃能力を保持すると亡  
くなった安倍晋三が望んでいた軍事  
政策が現実化し、トマホークという  
中距離ミサイル、アメリカでは役立  
たずと評価がなされた中距離ミサイ  
ルを500基買うと言っている。こ  
の情報を最初に報じたのは読売新聞  
です。日本政府は言い値で買うから、



1基2億円以上になる。この大事なことが読売新聞のスクープで決まる。異様ですよ。

平行して南西諸島軍事要塞化も、なし崩し的に安保3文書の閣議決定以前から、ほとんど自衛隊がミサイルを運び込み、ミサイル基地を造る計画を有無を言わせず進めている。

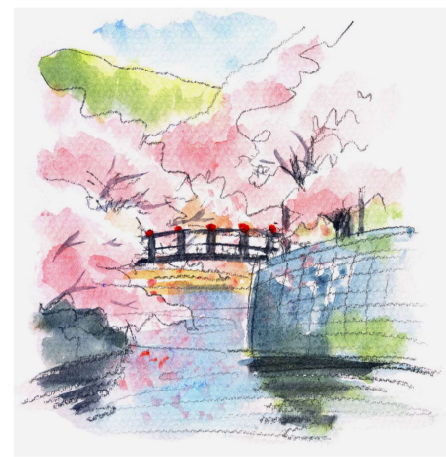
南西諸島の与那国島で、「キーン・ソード23」という自衛隊とアメリカ軍の合同訓練があった。与那国島は日本で台湾が一番近い。晴れた日は台湾が見える。人口のかなりの部分自衛隊とその家族になった。合同軍事訓練が行われたとき、与那国島の公道を自衛隊の装甲車が堂々と走った。これ、地元の新聞の琉球新報の動画です。本土では知られざるこの現状を見ていただきましょう。(注 このあとに市街地を装甲車が連なって走る動画が流れます)。

想像してみてください。装甲車・MCVが鎌倉の公道を走っている風景を。異様な光景ですよ。かような軍事化をなし崩しで、有無を言わず一方的にやっつけていいのでしょうか。もう一つ、去年の11月、岸田内閣は原発政策の大転換をやった。有識者会議も一応プロセスを踏んだこととして、2011年の東日本大震災と福島第一原発の炉心溶融事故の

廃炉作業がいつ終わるか全く見えない状況下で。

安倍内閣、菅内閣でさえ絶対口に出せなかった原発の新規増設。この間、原発政策の見直しに大きく舵を切り、ついに新規増設を言い出した。原発を予見しているのか、次世代型革新炉へのリブリースメントへ、と堂々と新規増設と言えはいい。革新リブリースメントと言葉。今の官僚が多用途する霞が関文学用法というのは、過ぎる。一つまた、ジョージ・オーエルのです。これまで原発稼働期間の上限40年を引き上げて60年。60年はさすがに超えられないだろう……しかし、今度は、上限がさらに緩和された。再点検などで稼働していないときは、その期間をカウントしなくていいとなった。こんなめっちゃくちゃな論理はない。それなら80年、100年も大丈夫になる理屈も成立する。皆さんが寝ているときは年を取らないにしたい、というようなものでしょう。しかし人間は眠っているときも経年劣化が進んで年を取ります。しかし、原発は再点検で停止中というのが何年経ってもそこは数えない。福島第一原発の事故をまるでなかったこととして、臆面もなく堂々と原発政策を前進させる。

僕は一昨日まで沖縄にいました。国会では、施政方針演説を受けて各党の代表質問が始まった。ホテルでテレビをつけたらNHKの代表質問の中継で、ちょうど志位和夫さんの質問だった。彼は敵基地攻撃論について聞いていた。「明らかに専守防衛という今までの安全保障政策の理念に反する」と言ったのに対し、岸田さんがあの表情で、敵基地攻撃能力とは言わない。「反撃能力の保有は専守防衛を逸脱しません」と答弁にもなっていない「朗読」をしている。皆さんは知っていると思うが、国会答弁は質問を事前に通告する。それに対する答弁を、官僚が作文した模範回答集を朗読している。日本は、総理の記者会見も出来レースで、幹事社の質問も事前に質問通告をして読んでいるだけ。



質疑はクエスチョン・アンド・アンサーというが、本当の意味での質疑じゃない。朗読大会ですよ。国会の質疑も、通常国会の冒頭でやる所信表明演説も、全部スク립トライターが書いた原稿を棒読みしているだけ。うつむいて読むか、顔を上げるとパソコンターのガラスに原稿が映るのでそれを読むか。所信表明演説原稿朗読大会ですね、ああ恥ずかしい。僕、今日も朗読なんてしていないです(笑)。「専守防衛逸脱せず」は、沖縄タイムスの記事にありました。東京に帰って全国紙を見たら、出ていないですよ。こういう記事が出てないのは、こういう答弁をするのは当たり前だと思っっているから、記者ももう記事にしないんですね。ただ敵基地攻撃能力を保持することが専守防衛を逸脱しないなんていう理屈は成立しません。これなら、真珠湾攻撃は専守防衛を逸脱せず、広島、長崎への原爆投下は専守防衛を逸脱せずですか? こんなめっちゃくちゃです。

**事実を見ようとしな  
(トリックスターの)危うさ**

さつきから申し上げているオーウェルの小説は、名作だと思えます。



ているのではないかと。これは自分の責任でもあると思うんですが、とても危機感を抱いています。

安倍さんの事件について、時間がないけれどこれだけは言っときたいと思います。このような大事件の時に、作家とか小説家が何を言ったかという点を僕は注意深く見ていました。ここで二人だけ紹介しておきます。

一人は、小説家の高村薫さん。事件の1週間後の京都新聞に共同通信のインタビューが掲載されました。「日本では死者に鞭打つなという風潮が強いが、民主主義を軽んじる振る舞いを繰り返した安倍氏の功罪は、冷静に判断されるべきだ」と。事件のわずか1週間後にこういうことを言った作家がいたことに日本にはまだ希望が少し残っていると思いました。

もう一人は、作家の辺見庸さん。事件後の8月に都内で小さな講演会がありました。辺見さんはリハビリのため車椅子で話をされたのですが、そこで「山上という青年は、近視眼的には間違ったことをしたが、歴史を考える人間を深く揺り動かす何かがあったと思わざるをえない」。

## 「ウクライナ」後に於ける 憲法9条の有用性

話は、ウクライナに移ります。僕はロシアの侵攻後に、ウクライナには2回行きました。歴史を振り返ってみれば、あらゆる侵略は自衛とか平和維持とか、自国民の保護という名目のもとで行われてきました。日本の場合もそうです。上海事変、満州事変。戦争と言わず事変なのです。このときも自国民を護ると言って侵略戦争を始めた。プーチンのやったことと同じことを過去に日本もやっていた。日本だけじゃない。アメリカもイラクとかアフガニスタンとか他国に自国の兵を送った。フランスの思想家ジャック・アタリがロシアのウクライナ侵略は、真の意味での冷戦終結の最終章にあたると言っています。この考え方はとても有効な枠組みを我々に提供してくれていると思います。

ロシアとウクライナの関係の歴史も知っておくべきです。1932年から33年にかけてウクライナでは大飢饉が起きた。当時の指導者はスターリンで、彼の命令によって穀倉地帯のウクライナからすべての食糧がモスクワに運ばれた。これにより

ウクライナでは餓死する人々が続出し、人肉を食べる状況にまで至った。これをホロドモールと言って、ウクライナの人々は人為的に引き起こされたシエノサイドだとして今でも忘れてはいない。

独ソ戦争も日本人の理解とは全く違います。僕はソ連に4年間住んでいましたが、ソ連軍がナチス・ドイツを打ち負かしたというのは、彼らアイデンティティです。ソ連の人は、今でも我々がナチス・ドイツを打ち破って、ヨーロッパを解放し、ひいては第2次世界大戦の連合軍の勝利を導いたのだと思っています。

これを引き継いでいるのが今のロシアの多数派なのです。だからプーチンは、「ウクライナのネオナチ」という言い方をして侵略を正当化している。5月9日はロシア最大の祝日、戦勝記念日です。ドイツが降伏文書に調印した日です。ロシア国民にとっては、今の状況は独ソ戦争の続きをしているみたいなきわびがあるんだと思います。

ロシアのウクライナ侵攻が日本に突き付けたのは、今こそ憲法9条の精神が問われている、ということだと思います。僕は、ますます憲法9条の価値が高まっていると考えており、「憲法9条はお花畑だ」と言って元気に

なっている人もいるけれど、戦争をしてはいけないと戦後77年間貫いてきた考え方が今の日本にあって、一番根本のところは9条だと思っている人間なんです。しかし、防衛のためには戦争するのはやむをえないと考える人が徐々に増えていることも現実です。憲法9条にはすごいことが書かれています。

「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際戦争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。前項の目的を達成するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。」

憲法は、国を縛っています。政権を縛っています。政府を縛っています。国の交戦権は認めないと言っているのに、今、政府は何を言っているんですか。防衛費43兆円だとか、敵基地攻撃論だとか……。憲法は武力・戦力を認めないと言いつついるんですよ。ウクライナ侵攻が起きたことで、ますます9条は大事なものだ、その価値が高まりました。

しかし、逆行するように憲法改正の動きが活発化しています。国会では憲法調査会がすごい頻度で開催さ



れている。先日の国会で、維新の会の馬場議員が質問をしていましたが、現憲法を「空想的平和主義」と言っていました。維新の会は、日本の核武装も認めようという政党です。この党はヨーロッパで位置づけられるとすれば極右政党ですね。決して野党なんかじゃない。馬場さんはこの後、核シエアリング論に言及して、妥当だと言っていました。維新の吉村大阪府知事も賛成していました。核シエアリング論って言うのは、日本の領土内にアメリカの核を配置してもらって、それを日米で共同管理するというものです。何を言っているのでしょうか。核のボタンを押せるのは、アメリカの大統領だけです。こちらの考えの方がよほどお花畑なんです。

## 2022年の暮れ、自弁で モスクワを訪ねてみた

今、世界でロシア嫌いが猛烈な勢いで広がっています。

フレリー・ゲルギエフという世界的に有名な指揮者がいます。彼はプーチンに近かった。彼はウィーン・フィルの首席指揮者でしたが、追放されました。さらにスウェーデン王立アカデミーからも除籍されました。ネットレブコという有名なオペラ歌手も

国際舞台からほぼ追放されました。

2020年にモスクワのドストエフスキーの家博物館を生誕200年の節目として訪れたプーチンが「ドストエフスキーはロシアの偉大な思想家だ」と言ったがために、ドストエフスキーの人氣がどっと下がってしまった。その反対にトルストイは人氣があるらしいです。ソルジェニツィンはソ連の独裁的な政治体制を批判した反体制の文学者ですが、晩年になって、ロシアのナシヨナリズムに通ずる大ロシア主義的ニユアンスを主張したことで、プーチンがそれを褒めたんです。そうしたらソルジェニツィンもダメかみたいなことが起きています。

著名人やアーティストだけじゃなくてスポーツ界も。サッカーワールドカップや世界陸上、ウィンブルドン、フィギュアスケートといった国際競技でも、ロシアの選手は追放されている。パリ・オリンピックにウクライナが出場するのであれば、我々はボイコットすると、IOCに対してロシア政府とベラルーシ政府が共同声明を出しました。今のままでいくと両国は外されるから、その前に自分たちの方からボイコットする。異様なことです。クラシックコンサートやオペラの演出からチャイコフスキー

が外され、ラフマニノフの生誕150年だかの記念コンサートは全部中止になった。さすがにやり過ぎだっというんで、少し戻ってきたけど、こんなこと一体いつまで続くんだと思えますね。

去年ベラルーシのルカシエンコ大統領に会ってきました。プーチンの世界で唯一のお友達。その独裁者のインタビュは「報道特集」で放送しました。

インタビュの前の日、首都ミンスクで、街頭インタビュを無許可でやったんです。

最初に答えてくれた女性が、私はウクライナへの軍事侵攻には反対だ、ウクライナの人に頑張ってもらってカメラに向かって堂々と発言し、僕はびっくりしてね、そういうふうな答えが返ってくると思わなかったから。聞いていったら、みんな、クツて目を見開いて、ほとんどの人がウクライナの戦争に反対だって言う。一番感動したのは……、答えながら泣き出しちゃった女性がいて、絶対に今の戦争をやめさせなきゃいけない、ワタシのこのインタビュが放送されたことで逮捕されてもいい、と言った。

思い出したのは、スヴェトラナ・アレクシエーヴィッチというノーベ

ル文学賞作家です。ベラルーシから事実上追放されて今ドイツにいます。彼女は自分の文学を語るとき「小さな人々」というキーワードを使います。ロシア語で「マーレンキエ リューチ」、意味は、名もなき小さな人々。庶民の心の中、その言葉を拾い上げて伝えるのが、自分の役割だとずっと言い続けている。その言葉を思い出しました。

僕らみたいな外国メディアが偉そうに、どうせこいつらは独裁国に住んでいる人たちで、怖がって何も言わないだろう、なんてたかをくくっていたのに、いきなりの街頭質問に、みんな真剣に答えてくれて、僕はもう胸がいっぱいになっちゃって、大統領のインタビュを放送したことよりも、その小さな人々の声を放送出来たことがよかったって思っています。

2022年の年末年始、今度はモスクワに行ってきました。番組から許可が出なかったので自費です。戦争当事国であるロシアの首都モスクワの人たちがどういふ暮らし向きをしているか、どういふ生活をしているかを自分の目で見たい、というのが目的でした。



スクリーンを見てください。これはグムっていう百貨店で、モスクワっ子自慢の商業施設です。カルティエとか、アルマーニとか、オメガとか、世界的なブランドショップが集まっています。12月31日の大晦日に訪ねてみると、人の賑わいがすごくて、イルミネーションの眩い光が溢れている下、アイスクリームを頬張る人々や大勢の家族連れで賑わっていました。いったいどこが戦争をやっている国だ、と思いましたがね。戦争を一切感じさせないごく普通の年末。

僕が撮った次の動画は1月1日、元日の赤の広場です。メリーゴラウンドが設置されていて、平和そのものの光景でしょ。人がたくさん出ていて……聖ワシリイ大聖堂、そしてクレムリン。レーニン廟もありますね。モスクワ中から人がこぎやって集まって来ているのでしょうか。

旅行者として1週間しか滞在していないので、これが現在のモスクワをすべて語っているとは思いません。

もしかすると厭戦気分がどこかで見つかる、そんな兆しがあるんじゃないかと訪問前は想像していました。前線ではウクライナ軍に苦戦している、というように西側のメディアは報道していますが、モスクワの人たちにはそういう気配が全く無かった。

僕がモスクワに住んでいた91年から94年は、ソ連が消滅する時期で、市民がワアって繰り出して、これからは新しいロシアに生まれ変わるんだという希望があった。この年末始のモスクワ市民の表情には、喜びも悲しみも見つけられなかった。プーチンは徹底的に自分に反対する市民とか学生とか運動を弾圧して、殺したり、粛清したり、ナワリヌイを獄中に入れたり、あらゆる弾圧手段を取った末の「今」があります。昔のソ連に戻ったのか？ モスクワの変化のなさに、絶望的な気持ちになっしまいました。かの国民を見ている限り、ウクライナ戦争は簡単に終わらないですよ。ベトナム戦争に近いような形で、ずっと続くのではないか。しかも当事国じゃない国々は武器供与をして、正義が勝たなきゃいけない戦争だからロシアに徹底抗戦を、と言っている。ウクライナ国民は兵士も含めて日々、死者が出ている。

日本はこの立ち位置でいいのか、考えたほうがいい。ウクライナで起きていることを奇禍として、沖縄や南西諸島で戦争の準備をしつつ憲法9条を骨抜きにしようという動きがどんどん強くなっています。そういう時代の流れを無視することなく

ちゃんと見ることが、僕は本当に大事なことだと思えます。



## 《質疑応答》

### ◆日本は

#### アメリカ力第53番目の州？

アメリカについての質問がたくさん寄せられました。「アメリカに日本政府は言いなりになっている」、「憲法はアメリカを縛ってないじゃないか」、「アメリカは中国に対して新しい冷戦を始めると考えますと、軍事ブロックの強化は平和と対極だ。外交による平和の構築が世論の多数派になるためには何が必要ですか？」

外務省は多チャンネルで外交しなきゃいけません。しかしながら、外務省はアメリカ一辺倒になっちゃった。外務省の中には、中国専門のチャ

イナ・スクール、ロシア専門のロシアン・スクール等々がある。日本が比較的強かったのが中東です。日本独自の外交力で、三井物産とかも現地に入っていたりして、太いチャンネルが作られていた。ところが、今の外務省では北米局にあらざるば人にあらず。とりわけ中国を担当するチャイナ・スクールの外交官が冷や飯を食っている。アメリカ担当の北米局の外交官だけがエリートコースに乗って、力を発揮出来る。

歴代の首相は日米関係が日本の基軸だ、外交の基軸だ、と言ってるけど、少なくとも外務省は多チャンネルの多極的な外交交渉をしないといけない。アメリカじゃないんですから、日本は。あ、違いましたっけ、53番目の州でしたっけ。僕は対米自立っていうか、アメリカに対してきちんと物を言える、少なくとも独立国としての立場を貫かないとダメだと思っています。

### ◆本来のマスコミ

#### 本来の公共放送とは？

マスコミの在り方についての質問がたくさん寄せられています。

「NHKが駄目になった理由はNHKの会長の任命と受信料の承認を内閣に握られているためではないです



か」「テレビや新聞が駄目になった理由は何でしょうか」「テレビ放送はスポンサーの意向、忖度で弱過ぎるのではないですか」「本場のニューズが国民に届いていないのではないですか」

そのとおりですね、そのとおりって簡単に認めちゃダメですけど。

NHKは会長が替わったばかりで、大方の予想を裏切って日銀の元理事が就いた。僕の取材では、稲葉っていう日銀の理事が、岸田さんの意向で説得して最終決定した。NHKは公共放送であって、国の機関じゃない。国営放送って言うよね、NHKの人はとても嫌がる。「いや、私たち公共放送ですから」って。公共というのはパブリック、みんなのための、みんなのものの意です。会長は、

NHKの法律上、経営委員会で決めることになっているけど、どういう審議をして決めたかはブラックボックスなんだな。取材したところ、ある日、急に経営委員会に降ってくるんですって、官邸から。こういう人間がいいんだ、と。そうすると、反対も出来ない感じで、呑むしかない。このたびのNHK新理事選びでは経営委員会の人選を政府が任命したことになる。公共放送であるわけじゃないんですか。

NHKはしっかりとした番組を作るんですよ、少数ですけど。お金があるし、人材もいっぱいいるし、頑張ってるってところはあるんです。だからいい番組を作っている人たちを励ますことが大事です。本来の公共放送にしていることとするならば、まずは経営委員会の仕組みを変えなきゃいけない。会長についても、公共放送のトップなんだから、公明正大に、少なくともNHKの実情に詳しい人になってほしい。この間、元NHKの有志らと、前川喜平さんに会長になってもらおうって相談していた。しかし、僕らが発表した翌日に新会長が決定してしまっただ。おまえらの言うことなんて関係ねえぞ、俺らで決める、と示したかったのでしよう。

「私（講演会出席者）は40年余り新聞記者生活を送ってきました。昔はメディアに対する政治家からの圧力とも言える批判に対しては、メディア界がおおむね一致して対抗していたと思います。ところが近年のメディアは、政権に尻尾を振るがごときありさま。なぜ、いつ頃からこのような情けない状態になったのか」  
重要な指摘ですね。国のありようを根本から変えるようなこのたびの原発政策、防衛政策について、政

府に対して、これはあまりにひどいものでは、とメディアが一丸となって一致して迫れないようになってきている。質問用紙に書かれてるように、尻尾を振り続ける状況は確かにあります。

メディアそれぞれの意見、立場があっていいんです。でも無茶なことをやられたときに、メディアが分断されているのはよくない。一例を出す、トランプ時代、CNNの記者が政権の移民政策に反対して、ずっとこの問題を追及し続けたら、トランプが記者会見で、その記者からマイクを剥ぎ取って記者証を没収しようとした。ひどいでしょう、子供みたいなことしているわけですよね。

それに対して、さすがにアメリカのあらゆる新聞とあらゆる通信社とあらゆるテレビ局が一致して、「何てことするんだ。記者証を取り上げたのを撤回しろ」と揃って抗議声明を出した。トランプもまとまった抗議を聞かざるを得なくなって、ちゃんと返したんですよ。

日本って、そういうことやんないでしょう。今は下手すると、1人だけ裏切って、何だか政権の側についてちゃったりするみたいな新聞とかテレビがあります。政権べったりの記者がいるでしょう、この辺まで名前

が出かかっていますけども（笑）。腐敗です。メディアは本来、会社のためにやるんじゃない、自分の考えや取材を属しているメディアの中で発揮出来るような、これは内的な自由っていうんですけど、組織のために滅私奉公するのが仕事ではないので、内的な自由を活かすことがすなわちメディアの役割であると思いますね。

### ◆受け皿としての野党と市民運動が弱い！

現在の岸田政権の動きについてです。岸田氏は比較的穩健に見えたのに、いつのまにやら安倍、菅を超え強権を示している、これは岸田氏の本質ではないか、本質なのか、それとも、周りの政局のバランスの中で動かされているのか、という質問。これは分からないですよ、私、岸田じゃないですから（会場爆笑）。

岸田さんっていう人は政治家3代目でしょう。外国の政治の在り方と著しく違っているのは、日本の政治家は世襲が多いんです。国会議員の世襲率に関しては、世界に冠たる日本です（苦笑）。よく日本の報道の自由度が低い、などと言われているけど、世襲度のほうがさらにひどいです。もう少し実質的な能力のある

人が、政治家になったほうがいい、と思います。政治家の世襲とは逆に、大事なことは伝承。

世代が未来へと継いでいくことです。若い人はもうダメだと諦めて、先ほど若い世代のデマゴグの話を出しましたけど、僕は大学で教えているものですから学生と直接会話をしたりする機会があるんですけど、今の学生は真面目です。僕らが考えている以上に物凄く真面目で、すごく悩んでいるし、自分はどうしたらいいかみたいなことについて真剣向きあっている。僕が学生だった頃よりも今の学生のほうが深刻な状況になっていて、希望が持ちにくい現実になっているけれど、そういう状況をつくったのは僕らじゃないですか。僕らが、若いやつはダメなどと言う資格はないと思います。僕らはむしろ、僕らが経験してきた過程の中で、これだけは絶対にあとの世代に伝えておこうかなみたいなものをちゃんと伝承出来るかどうかが、僕らの側の責任だと思っていて、その伝承の大切さを最近身にしみて感じています。

危ないと見ています。特に労働組合運動は危ないと思いますね。労働組合運動は、働く人の受皿としての機能を果たしてない。本当に困っている人の駆け込み寺じゃないとダメなわけじゃないですか。一番困っている人のために動かなきゃならないときに、労働組合がその受皿足り得てない、どこかかむしろ労働組合が企業経営の一翼を担うようになっていく。それから、市民運動が、純粋さを競い合うみたいな、あつち汚れているよ、私たちのほうが純粋だよとある種純粋さを競い合うような形の市民運動をやっている限り、連帯出来なくなるんです。僕らは間違っから、間違ったときに、間違ったら直していく、それはすごく重要なことで、間違ったら直せばいいんだって、やり直せばいいんだってというようなことを基盤にしていけないと、純粋さを競い合うような形の運動って、僕、結局みんな離れていっちゃうんだろうなって。

運動やるときに物凄く大事な要素は、魅力ですね、ユーモアです。そして、真剣にユーモアが大事ですって言うと、これまたしらけて離れていっちゃうんです。僕は何で自分たちの若い頃、さつき、僕と同年代の人が昔はよかったっていう話をしましたが、何であの頃自分たちは社会的な事柄に夢中になっていろんな抵抗をしたのになって考えたとき、やっぱり魅力的な先達とか、魅力的な先輩とか、魅力的な実践の人の背中が見えていた気がするんですよね、その人たちにやっぱりついていこうみたいな。今の若い人たちを見ていて、そういう魅力とか、ユーモアとか、そういうものを含んでいる人についていきたい、というロールモデルがもしかするとないのかもしれない。これは僕らの責任でしょう。

#### ◆司法も国会も機能不全

社会の公正さとかそういうものを維持していくときには、司法っていう機能が正常に働かなきゃダメです。ところが今、日本の裁判所ってどうですか。

いや、僕ね、信頼している弁護士さんが、日本の三権分立の度合いっていうのを見ると、行政権が75%だと。つまり、官邸主導のあいいう政治、忖度の官庁とかね、そのような行政権が75で、あとの20が立法府、つまり国会です。残りの5%が司法権だ、と。三権っていうのは本来、等しくお互いがチェックし合

わなきゃいけない。本当は国会が国権の最高機関なんだから、もっと機能しなきゃいけないんですけど、行政権が75で、立法権たる国会が20で、残りの5が司法っていういびつさ。こんな司法でいいのかなと思います。

#### ◆身近な問題から声を

上げていこう！

「ロシア、ウクライナ戦争で停戦に向けての動きは全くないのでしようか、正義の名の下に被侵略国であったとしても、抵抗、抗戦一色になっていることに対し、それでいいのだからかと思われることと、NATO諸国がそこに必要以上に乗っかって、ウクライナの人が犠牲にただただなっている……」。僕もそう思っています。ただ、現実的に言うと、仲介をする可能性はある国は、中国があります、さらにインドがあつて、それからトルコっていう国もあつたんですけど、みんな引いていますね。長期化すれば長期化するほど介入しづらくなつていて、この先G7が広島で開催されますけど、あれはもう結果が見えています。徹底的にロシアを批判して、非難して、困り込んでというだけ。その議長国に日本がなるんです。広島から発するメッセージとして、

もっと戦争をやれということをしているのがどれほど正しいのかを、ちゃんと考えたほうがいいと思います。

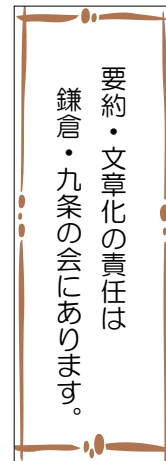
さて、ここにいる皆さんは少数派ですか？ 自分たちをどう思っていますか？

僕は多数派である必要は全然ないって考えていて、少数派でも自分の意思をきちんと持って、声を上げ続けることこそが物凄く大事だと思うんですね。黙ったら終わりです、黙って何のリアクションもしないのは。

僕はメディアにまだ関わっているので、メディアに絶望してしまったり、もつこの仕事を辞めますけど、メディアが本来の意味でのマスメディアがない国を見てきているので、政権の宣伝しかない国の怖さを知っています。まだ日本はそれに比べるとまだですが、まだまだな部分が残っているうちに、メディアを励ますような姿勢も必要だと思います。

さっきも触れましたが、身近なところが、鎌倉市でいうと市庁舎の移転話とか、そういうことのほうが大事です。自分の身近なことが一番の政治です、そこを見ずして、いきなり世界平和のことを語っても、やっぱり僕はダメだと思いますね。身近な問題から入っていく。そのときに肩間に筋を立ててやるのもいいんで

すけど、ユーモアとか、笑いとかがお互いに膝カクンって気にさせるような笑いが必要だなと。そういうのはひさしさんが得意な分野だったのですよね。泣かせて笑わせるみたいなね。



### アンケートのご協力

#### ありがとうございます

#### いくつかご紹介します

★「あの有名な金平さんが」というミーハーな気分もあって松田町から来ました。現場取材を通しての信念や行動には、ただただ感心するばかり。「ウクライナの戦争を停戦させる動きはないのか？」という私の質問と、付随した意見にも賛意を示していただいたことは大変に心強いものを感じました。「少数派」になることを恐れずに、信念を大事にできるよう、過ごしていけたらと改めて思わせてくれました。

★テレビやWeb上のルポで金平さんのお話、お考えに親しんできましたが、本日は直接お話を聴くことが

できて良かった。一番良かったのは、とてもユーモアのある方だというのがわかったこと。「報道特集」では限られた時間なので、無駄のないお話の仕方。「ザ・ジャーナリスト」という印象でしたが、きょうの講演で「人間 金平氏」を間近に感じることでできて良かったです。

★「殺すな！正義の戦争はない」「武器供与は加担・・・」「教育の重要性・歴史を学ぶこと」「ロシア国内の大衆の声と連帯すること」という教訓のなかで、沖繩の人々やロシア国内の人々との実際の連帯の活動の重要性を痛感しました。メディア応援、ユーモアを忘れず、政治は身近な所を変えることから。声を上げ続けることを実行していきます。若い世代への伝承が大切！という言葉が身に染みました。

★講演内容はとても良かったです。聞きながら怒りを感じたり。でも希望を捨てずにかなげればと思います。「少数派でもいい」ではなく、「少数派も存在しなければいけない」と思います。みんなが同じ意見で突き進むことほど怖いものはありません。

★わかりやすくお話を下さってありがとうございました。TVの報道を見ていて・・・？と思っていた事、自

分なりに調べて考えていたことを、この講演で確認できた気がしました。日本の感覚がおかしくなってきたいる。考えることをしない。真実を知ろうとしない。平和の意味を考えさせられました。与那国島の映像はショックでした。今、私たちにできることは何か？岐路に立たされていることを真剣に考えたいと思いました。

★本日のニュースは届いているのか？今日の金平さんの講演を聞いて、新しいことばかりで驚いた。自民、公明、維新の考えのテレビニュースに嫌気がさしてテレビを見なくなりました。唯一の国会中継も細々と。これから統一地方選挙で国民の市民の声を聞く政治家が多く生まれることを願いたい。ますます9条の会の活動が期待される。金平さんのような「本当の」ジャーナリストの話を聞きたい！！

★今の岸田政権の危うさ、恐ろしさはこのまま黙っていては絶対に行けないと思います。でも、日本人は、なかなか団結して声を上げることができず、このまま流されてしまいそうで怖いんです。子や孫たちに何かなんでも平和な国を渡したいと思いません。

★目で見た生の情報をいただけたことに感謝。



## 「九条を文学の言葉として」 大江健三郎

6月6日、「九条の会」呼びかけ人の大江健三郎さんが、亡くなられました。大江さんは2011年4月6日、当会主催の「憲法のつどい鎌倉―井上ひさしの言葉を心にぎざんで」で講演してくださいました。ここに、そのときの講演からいくつかの言葉を抜粋します。なおこの講演は岩波ブックレットNo.814で読むことができますし、鎌倉・九条の会発行のニュース6号（2011年6月発行）にも抄録を掲載しました。ニュースはホームページからご覧いただけます。http://kamakura9-jc.net

この日は、前年に亡くなった井上ひさしさんを偲び、学ぶ講演会でした。大江さんは、井上さんとの個人的な交流の話を交えながら、どのように憲法を読むか、と話を進められました。

.....

私が一二歳のとき、「憲法が施行されました。私たちの田舎の新制中学には狭い図書室しかありませんでしたが、そこに「憲法」の本が運ばれてきました。私は、それを読んで、じつに感心した。すぐ家に帰りまして、母親にその本の話をしたのです。

.....私がいつも本を読んでいるもんだから、夕食の際に、「母は「どういう本を読んだ？」と聞きます。「面白い本だ」と言いつつ、「どこが?」その実例を挙げなければ、彼女は許さないんです。私は、学校で憲法の本を読んだ日、「お母さん、僕はとてもいいと思った」と言いました。ところがいつもの通り、「よいが?」

.....それで、「九条というところがいい」と私は言ったんです。

例の通り母は、「九条がいいのか、九条の何という言葉がいい?」私は答えられなかった。母は追及します。「憲法は言葉で書いてあるでしょう。いいと思うのだったら、どの言葉がいいと思うのか?」私は図書室に戻って、九条の項目を見て、いい言葉を探しました。そうすると、「希求」という言葉があったんです。それを私は、なんだかいい言葉だと思った。そして字引で調べたんですね。「ねがい求める」。心から望むこと、真面目に望むこと。それが「希求する」ということだとわかりました。「希求する」が、お母さん、いいと思う」と答えることが出来ました。

あの戦争が終わってすぐ、憲法をつくろうとした大人たちが、「希求する」と書いた。その「希求する」という言葉は、憲法にあり、教育基本法にあるということも、子どもながら私は知っていて、いいと思った。とくに、教育基本法にあるのは、子どもにもよくわかるようだった。いまはもう改正された、あたらしい教育基本法にも「希求」という言葉はありますけれども、しかし、それを読んで、そこに真面目な、悲しそうなほど真面目なものはないと思う。私はこのことをよく考えてみたいというも思っています。そうした感じ方が、私がどのように憲法を読むか、という流儀です。そして私の憲法の読み方には、文学的などころがあるとも思っています。

.....

このあと大江さんは、井上ひさしさんの代表作、広島を描いた戯曲『父と暮せば』について、スタッフとの朗読を交えて話されました。

さて、私が、自分らの同時代で、井上ひさしさんと並び偉大な劇作家だと考えているのは、木下順二さんです。その木下順二さんの『神と人のあいだ、第二部夏・南方のローマンス』という大きい戯曲に、「取り返しのつかないものを取り返す」という台詞が出てきます。

一人の女性漫才師がいます。その恋人が戦争犯罪者として囲いこまれて、殺されてしまった。「あの人を取り返すことはできない」。その女性は、自分の言葉で考えます。しかし、「あの取り返せないものを、私は取り返してやる」と覚悟する。その取り返しのドラマの幕がいまから開いていくとはっきり私らに示すのが、木下さんの芝居の締めくくりのシーンです。

私は、木下さんが、「取り返しのつかないものを取り返す」ドラマとして書かれたことと、井上さんが『父と暮せば』に書かれたことを合わせて考えます。原爆で亡くなってしまったお父さんが娘のもとにあらわれて、それは。娘が自分の心に死んだお父さんを呼び寄せてということですが、その上で彼女に「未来がある」ということを発見させる。すなわち“取り返せない”死者のお父さんがあらわれて、「おとったん、ありがとありました」と娘の言葉が返される、こういうことですね。それが「取り返せないものを取り返す」ということだと私は思うのです。

大きい地震と津波のために、じつに数多くの方たちが亡くなられた。その方たちはみな、家族の方にとってみても、友人にとってみても、取り返しのつかないところに行ってしまった。しかし、その人たちの一人ひとりの家族、一人ひとりの友人は、取り返しのつかない死者を取り返そうと思っていられるに違いない。

いまもその苦しい心の作業をつづけていられるにちがいないと、私は思います。

同じ震災による福島原発の事故は、なお続いています。いまなお進行中の大災害です。

しかしいま私たちの国で、この国びとのなかで、その取り返しのつかないことを「取り返してやる」という心の働きの、しっかりあると私は思う。そういう人たちの、というより私らみんなの心の働きの実って、原発の事故のもたらしたものと対抗してゆけば、三〇年後、五〇年後、大人になった子どもたちによって、私たちに、ありがとございました、と言われ、また私たちが将来の人たちにたいして、ありがとございました、「ありがとありました」と言うことができるようになるかもしれない。

それを、私は望む、願う、その思いを、いま私は、六〇年前に覚えた「希求する」という言葉で言いたい。

私は「核抑止」の思想に反対します。それに重ねて、現在の原発の事故の災害のただなかにありながら、いま五四ある原発のうえに、さらに一四基を超えるあたらしい原発をつくらうとして、「そのために、今度の福島原発の事故を前向きな教訓とする」と言うような人間を、許すことはできない。そう考えます。

「九条を文学の言葉として」読む一人一人ひとりの切実な問題として憲法を、九条を読む―大江さんの読み方に学びながらみなさまとともに憲法を守るために力を尽くしてまいります。

## 千住 9条の碑 見学記



千住9条の会の中田さんに北千住駅までの送り迎え、案内もしていただき、4人でようやく9条の碑を自分たちの目で見ることができました。北千住は初めてでしたが4線が乗り入れていて駅前はとても賑やかで、お上りさんのように感じました。少し歩いていくと下町の風情が残っていて、焼き肉屋や和菓子の店が多くありました。碑の近くには桜並木が何か所もあり、みな満開で、前日の雨もやみ、お花見もできました。

碑はステンレス製で9条条文が横並びにピンクの文字で彫られていて、てっぺんに大きく数字の9が彫り込まれています。前に立つと自分が映ってまるで鏡のようです。後ろ

には寄付した人の名前が刻印されていて、鎌倉・9条の会の名前もありました。

碑ができるまでに2年近くかかったそうです。

現在のところ全国に30以上の9条の碑があり、大西洋の真ん中のカナリア諸島やトルコ、アフリカにもあり、本当に9条は世界の宝なんだと実感します。

千住の9条の碑は東京で初めての9条の碑ですが、神奈川にはまだありません。湘南平和憲法の碑を建立する会が立ち上がりました。(別紙チラシ) 湘南の地にも9条の碑ができるといいですね。

応援よろしくお願いします！

## お知らせ

### ★ 新署名

2021年12月から取り組んできた「憲法改悪を許さない全国署名」が1000筆を超え、1050筆になりました。5月3日の憲法集会で提出した550筆に加え、残り100枚を9条の会に郵送します。

これからは新しい署名「平和、いのち、くらしを壊す大軍拡、大増税に反対する請願署名」に取り組めます。

皆様のご協力に感謝するとともに、今後も新しい署名にご協力くださいますようお願いいたします。

署名送付先： 248-0025 鎌倉市七里ガ浜東3-18-2 角田淑恵

### ★ 毎月の9の日行動

毎月9日に、鎌倉駅東口地下道付近でパンフレットを配っています。また、署名も集めています。

短時間でも一緒に！

平日 15:00～ 土・日・祝日 11:00～

